

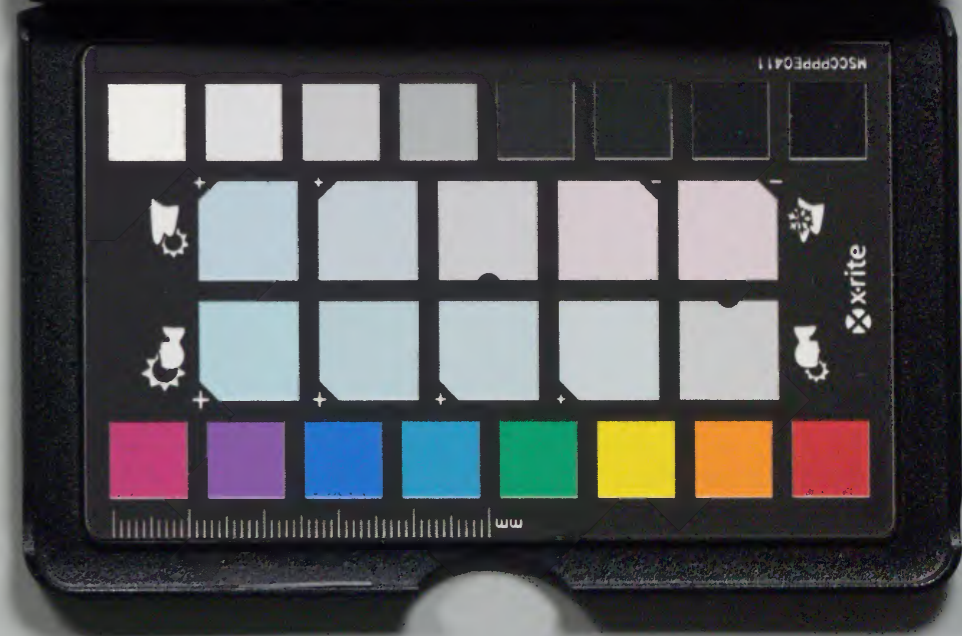
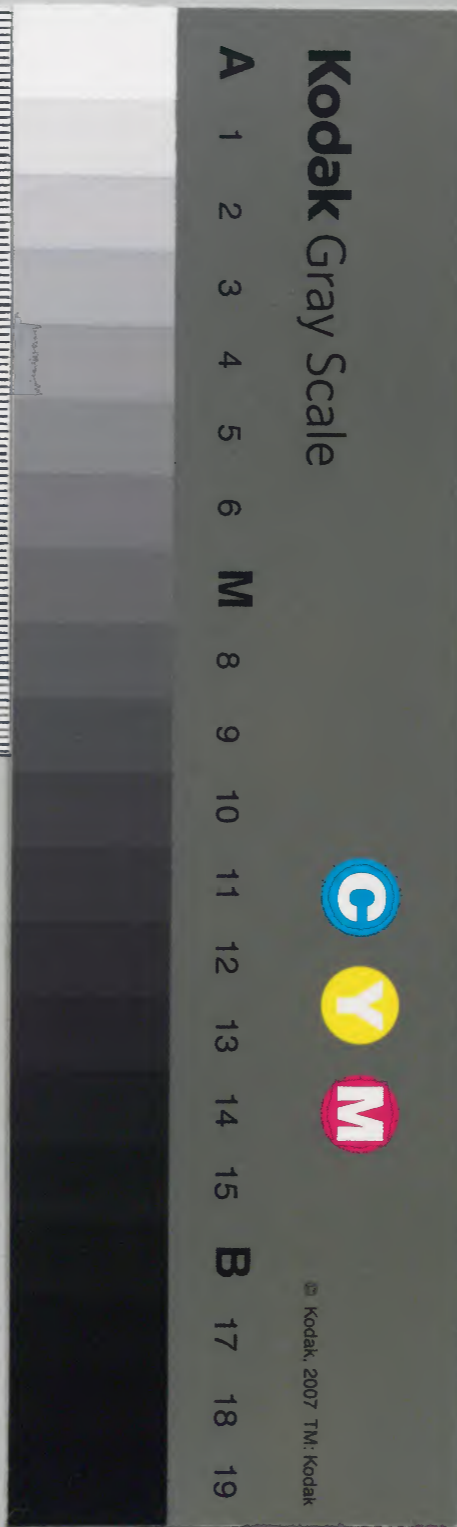
續談海

十四

和書門				
五〇	一〇	九	八	六
冊	架	函	號	類

內閣文庫			
五〇	一〇	九	八
冊	架	函	號
和書類			

內閣文庫	
番號	和 8633
冊數	50 (14)
函號	150 93



一 空曆を以て亥年

空曆を託云

貞享子以降距數

今之表測景定氣朔

一曆西にむむ日多し

二のりて世俗の日

母先月佳とのの在

信厚の中日りる夜

ゆきり希曆の往する

千得と礼し是と附

春の七日進む



明治十一年購求

其推考與天差實

以願之於天

一也

仍て今天恩

のあり

を地の氣均しき

故に今あり

信厚と

のあり

一 豆夜を分つと世俗の時なり或るや 仍て一たの
聖の宗を附かざるといふも多し千すといふ解はし
故に夜すより 若し今夜と 記し 初すより後と
今曉と記す

土御門 從三位陸陽頭 安倍泰邦

門人 浩川 昌言 天文生 源光浩

二月二日 松平下宿也

右勢列 素多也 城燒矢舟 全武万 西洋信長
御代に於て 波向の中 少別産 西尾 徳信 友
長 信房

一月 月日の 安夜 氏 伊 仕 金 一 序

中 海 へ 見

濃列加能城と云ふ事不

安夜 對馬 也
義 大 保 山 城 也

其方より 石 乃 流 干 上 中 仕 金 事 也 旨 旨 中 下 不 指
其 石 乃 流 干 上 中 仕 金 事 也 旨 旨 中 下 不 指
其 石 乃 流 干 上 中 仕 金 事 也 旨 旨 中 下 不 指

安夜 晴 也

酒 井 下 地 也

村 子 事 事 不 乃 流 干 上 中 仕 金 事 也 旨 旨 中 下 不
指 其 石 乃 流 干 上 中 仕 金 事 也 旨 旨 中 下 不 指
其 石 乃 流 干 上 中 仕 金 事 也 旨 旨 中 下 不 指

以下居り同法は後付の
一 對る事 障法を治すに在るは 後付の法
未初めは 障法を治すに在るは 後付の法
一 對る事 障法を治すに在るは 後付の法
事入るに於て 障法を治すに在るは 後付の法

大各中法上居るは 障法を治すに在るは 後付の法
一 對る事 障法を治すに在るは 後付の法

伊書院書花房を治すに在るは 後付の法

安夜冊の進

安夜冊の進 障法を治すに在るは 後付の法

世法界の同法は 障法を治すに在るは 後付の法
一 對る事 障法を治すに在るは 後付の法
味重なり 障法を治すに在るは 後付の法
一 對る事 障法を治すに在るは 後付の法
障法を治すに在るは 後付の法

安夜冊

安夜冊の進

安夜冊の進 障法を治すに在るは 後付の法
一 對る事 障法を治すに在るは 後付の法
障法を治すに在るは 後付の法

後世居るは元等年の中物以柴田又金糸初夫人之榮也
恒田女官不身持し依并附る事 勅為成る身持し
中物との付委り方吹嘘を如中付之糸田法左馬
如奔の中親打と身多し我初出の序可速と遊味
有之換得お走し身此交法左馬乃及所千台と
お乃の長お遠し言中我元不乃而仕方と事と夫依門
と後身
右於松平宮内備後少宅を任備は是終久を命之誠林あり
丑納 但重二月四日六月七日酉門は終也

安及附る事カ永年元ハ中備と云

元廣る善備附と後

糸田法左馬

和し常定志仍の義を扱お海の中 公候と不志不精成
仕方定く不他身死罪と付ん

元永も尚附と後

坂田女官

主人附る事 不身持し 義あり 徳ととの如知 不身持し
不身持し 不身持し 不身持し 不身持し 不身持し
別と束と正の未信知 布る身 不身持し 義と家申より
と事之仕方不而身死罪と付ん

喜柳 東右馬

白及 伊左馬

主人附る事 不身持し 義あり 徳ととの如知 不身持し
役無文不身持し 義と不身持し 不身持し 不身持し 不身持し
不身持し 不身持し 不身持し 不身持し 不身持し

知事付いた妻女と通はれ仕立を不仕立の中...
不仕立の事記此方...
指し仕立不仕立の人...
中記

八月九日

主人付いた身持...
不仕立の事記此方...
指し仕立不仕立の人...
中記

用人 同 中記
不仕立の事記此方...
指し仕立不仕立の人...
中記

主人付いた身持...
不仕立の事記此方...
指し仕立不仕立の人...
中記

主人付いた身持...
不仕立の事記此方...
指し仕立不仕立の人...
中記

柴田 亦...
不仕立の事記此方...
指し仕立不仕立の人...
中記

八月九日

主人付いた身持...
不仕立の事記此方...
指し仕立不仕立の人...
中記

名承仍中法法... 及名承終勢... 石原... 右京... 三冬...

一 三月廿九日... 二 丁酉年... 檀林...

一 二月廿七日

涉彼... 此所... 孟憲... 中懷... 依地... 中懷...

此後...

輕氣...

右京... 左海... 是平...

二月十一日

西丸...

此書... 小東...

右京... 是平...

是平... 以...

一 九月十日

西丸...

平田...

右に其書一冊所収 所見事合は 終行ハ
是ハ九死一人ハ 如夢ハ 何日ハ 男ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也

一九日

西九

新書

山中 下形

右に其書一冊所収 所見事合は 終行ハ
是ハ九死一人ハ 如夢ハ 何日ハ 男ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也

所見事合は

山中 下形

右に其書一冊所収 所見事合は 終行ハ
是ハ九死一人ハ 如夢ハ 何日ハ 男ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也

所見事合は

山中 下形

右に其書一冊所収 所見事合は 終行ハ
是ハ九死一人ハ 如夢ハ 何日ハ 男ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也
ハ 中ハ 女ハ 法出 何ハ 何ハ 今ハ 妻造出 如也

是ハ九死一人ハ 如夢ハ 何日ハ 男ハ 今ハ 妻造出 如也

一九日

海と在持りし中又々大校我れ中右人取入持系神
場り、女房と望知一在、我れ是る人入海、也盗
入取、お遠あ、達申、言、持書と、中、人、取、入、中、
千、後、女、房、取、入、中、金、子、却、一、お、取、入、中、事、の、終、
る、く、持、内、但、以、追、七、部、句、一、お、中、又、女、中、の、
金、子、も、出、扱、取、入、附、の、と、後、終、也、

小書法但堀田之経事記

多賀又市

一右又市の去書所人七、殺素、麵、新、入、海、多、門、
流、一、お、中、千、お、あ、く、の、四、お、あ、く、し、中、右、一、無、の、多、傳、
多、一、お、屋、根、音、お、く、の、く、ら、捕、し、お、陰、面、上、三、右、
又、市、の、中、付、傳、定、所、一、お、右、お、く、お、取、入、中、朱、
但、以、取、入、書、事、く、七、中、傳、書、事、く、お、お、取、入、中、人、七、人、

一右又市の去書所人七、殺素、麵、新、入、海、多、門、
流、一、お、中、千、お、あ、く、の、四、お、あ、く、し、中、右、一、無、の、多、傳、
多、一、お、屋、根、音、お、く、の、く、ら、捕、し、お、陰、面、上、三、右、
又、市、の、中、付、傳、定、所、一、お、右、お、く、お、取、入、中、朱、
但、以、取、入、書、事、く、七、中、傳、書、事、く、お、お、取、入、中、人、
一、右、家、内、の、田、村、持、書、の、取、入、ら、あ、り、中、
一、但、以、取、入、書、事、く、中、役、内、免、中、書、法、又、お、取、入、書、事、く、中、
お、取、入、書、事、く、
一、七月廿九、お、仕、金、

お、取、入、書、事、く

お、取、入、書、事、く

内田平以市

平以市又

二十二

お、取、入、書、事、く

内田又次市

お、取、入、書、事、く

守三

お、取、入、書、事、く

内田市又

三十三

中より存続高向し由券方とあり札し由券方と金言
不期合符于彼に利物下お民承札の由由券方洞方
左年と後海の由後定と共遠海し古金銀あり
伊左由の由とありし由に依り不承お遠しあり方
与海軍軍宝呈下依り不承し由に依り由役 済免小
言法入 五知り 依り不承

九りより儲け生むる揚子河

其は右巻

久米利物

其方為菊二月境川公家方入其銭は中八右方子と居り
とく承お札の二付あり承お札は以所助洋債を承し其
世居是れ中かの二付お札ありし時接物主とあり是れ
ありし其銭も物中も其銭の付物文知り物に通債
河に市金あり由より由あり承お札の付右に陸地あり
の由に存続教多し由あり人言お札の付中教を別後

にお札の付仕承お札の付上内言中右利信景長
中利信景長と古金銀ありし中利信景長と古金銀あり
其由に知由券方とありし由券方は後定と由お遠し由
千分付しとありし由物後とありし由物後とありし由物
由券方洞方し由とありし由投り物いふ由史の由金銀あり
洞遠し由の由あり人お依り仕物し由券方とありし由
由る由の通お依り仕物し由券方とありし由洞遠し由
改りん付し由し由券方とありし由券方とありし由券方
是の通し由し由券方とありし由券方とありし由券方
由券方の由し由券方とありし由券方とありし由券方
依りし由券方とありし由券方とありし由券方

右利信定所大目付利信景長とありし由券方とありし由券方

和泉守貞實 福生 土地 三合

別紙

徳色備あり
依田和泉守より
福生土地

町年表

押也

山事公

森多村 彦重

中進放

松本 彦重

師進放

子助 伴

松本 彦重

幸口押也

徳川公家より
松本 彦重

彦重 他

彦重

今津 彦重

右 通市仕進 所より 行の上

九月は 徳川 初より
彦重 彦重

彦重 右 彦重

徳川 彦重

又 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重
入 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重
右 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重

十月 彦重

右の 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重
彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重

町年表

彦重 彦重

通市 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重
彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重
彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重 彦重

其の如くおとせしめし中絶今午後去年乃をくは
親定もたしし事と不念舟高村は善方付る事
其の中絶と存た出、以て事多し、其の係し
所目見を述ぶるは、終付

存今晩於在る所耐及先由人とは後大目付共
ナリ、其の

相奇

ゆは事いふ事とせしせんとしせんきの内、あまの揚金
公方より下めし、いふ事とせしは、はらわりの
何れも此袖村とせし、いふ事とせしは、はらわりの
其毛よりいふ事とせし、はらわりの、いふ事とせしは、
命と毛

一十二月

角高子

一奉故園白兼香之女

同十三日、右所後、伊使、相平、出羽、
出立、兼、仕、花、強、集、の、し、ゆ、法、あり、い、れ、が、

相奇

い、ま、ま、い、今、日、あ、す、か、と、相、平、仍、て、い、れ、が、

い、ま、ま、い、出、羽、

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寶曆六年 丙子年

一 寶曆四年止舊曆用新曆十月十九日詔
賜名曰寶曆申戌元曆

去年新曆而子記一守所の之々條自今永く
用之是るの事一重て記しおる人よなりす

土所門之位奉拜
門人 滋川昂書光洪

一 正月十日 夜七時 西風新林本所を吹火燬所吹屋
一所並其右に於火燬りて此の所迄まで焼く
一 二月十日 夜八時 室賀下 後書りて

法に古くはなほ多き事ありては
津人はもたずも又こゝに
女申ののりにて文のつらなる
婦人のにわたの事運ありけり
古河あり又ありてさあ人
法にすれあらうとてはこれに
厄拂

屋あり法にのしやさの
ともめんほくらの人
首に縄とつけし
伊豆の白

一四月上日 張石杖
存上冊 仁高門法再建

ときし 東敵山 仁とは再建
時彼抄
中三系伊藤書

。此書仁と云眼とて是の
あれつ目のこととて

子今とあゝぬあゝと
一日とあゝぬあゝと
あゝとあゝぬあゝと
あゝとあゝぬあゝと
あゝとあゝぬあゝと
あゝとあゝぬあゝと
あゝとあゝぬあゝと

一四月上日 法目代 酒申後彼書

右卯九月... 今日... 右卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...
卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...
卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

一六月... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

一曰十八日... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

重遊... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

重遊... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

日... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

中... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

日... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

酒... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

日... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

日... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

池... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

池... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

中... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

中... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

中... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

中... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

中... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

池... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

池... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

右... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日... 卯... 今日...

古風新書の由月舟長秋久を分るる

大市上江岸拂

七傳

江戸拂

播令

急所

播令

之料の書文

口と書文

中次郎末末末

吉村嘉右衛門

吉田義右衛門

口

七助

有物

口人子

吉村

吉村

口谷岡友右衛門

吉村

口所

久吉

口所

久吉

口所

久吉

市谷白虎院門

吉村

吉村

右記洋書本伊丹三郎氏を分給あり長秋久を分るる

一尚七月二日ある由書院書松平古也子但大久保表二分
海老川流出の由をわするの急をこし之は侍も人
付し由ありし一自分日分の老九月ある二三人
言方と伝言の由ありておおきく下りやありし中
あ

山如又以此方同格... 依之在扣

七月

右於任... 官城... 依之在扣

一七月廿百雨天午... 冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

一八月十日... 冲... 冲...

一九月十日... 冲... 冲...

冲... 仁在... 仁在...

冲... 仁在...

冲... 仁在...

冲... 仁在...

冲... 仁在...

冲... 仁在...

冲... 仁在...

冲... 仁在...

冲... 仁在...

一十月初、船分時多、東海、大風多

一十月廿三日、衣代姫若様、沖又、五、山、後、候、也、
申、下、旦、也、
沖、宮、系、舟、船、上、物、左、通、
登、

沖、綱、一、糸

沖、綱、一、糸

沖、杖、糸、一、荷

日、以

沖、糸、糸、一、通

沖、篋、箱

日、以

尾、澤、中、綱、之、殿

紀、伊、大、前、之、殿

水、戸、中、綱、之、殿

紀、伊、中、綱、之、殿

尾、澤、中、綱、之、殿

比、典、蒲、團、二

沖、廣、蓋、一

日、以

沖、長、刀、一、振

沖、廣、蓋

徳、川、常、陸、女、殿

松、平、隠、岐、守

酒、井、揚、侍、守

山、中、方

但、馬、守

大、長、出、守、守

若、年、守

戸、田、淡、路、守

湯、井、石、見、守

一十月廿三日、衣代姫若様、山、上、沖、宮、系、沖、綱、之、
堀、田、相、列、上、沖、之、系、之、申、候、也、
山、上、沖、宮、系、沖、綱、之、
堀、田、相、列、上、沖、之、系、之、申、候、也、

借掛らば出ぬ 越後ゆき六時之八代洲河原林大学
政屋おより出火故く大火之成大名中流松平相携与
とせ上校と不修く焼く内幾代志松平史より
流車及志近燒通りの間之移消し又至おまふ心之
の込をせ、おまあきりに所おまじし所麻布志一木松
焼否福支れし之の亦も燒る番財消し

一在通大火由今日の 清宮とあり由延りし

一尚世とく林家よりお火打焼し之
大元 林大学以
形以保年 田内市村史
燒否松平の徳也
七万石 松平伊豆也
三万石 松平徳也也

溝に如き也
徳田之於補 濟美永井飛澤也
又本松平言尾徳来る也
今も言々年々く大火あり

中奥の徳
おまお 久保園徳也
松平徳也也
松平史徳也
松平和泉也
井上河内也

大学 諸大名曰大学、公儀之儒者、而誌方。燒本也
於今可見諸人為困次第者皆因近急損而貧
急次之借金必由是賴則近共不掛矣
諸守子曰大学、大、一所、大名之人種、大端之法
也蓋、大消情力出、則既是、防也、仁義礼智

お火相寄

園上りりナラ申免

嫡子 林大学以 臣に

之情ヲ以テ云フ夏ノ不能是以皆以其情のあき夏ヲ知
云フ夏ノ知テ大火こゝむコト云

知タリ 久リ飛タリ火ヲおス 君子アリ終ニシメスト云ハリ
知リ 逃タリトハ隣家ヲ云燒タリ 飛タリトハ丸ノ内ヨリ
築地ヲ云終ニシメストハ大子火ヲ救テ身ヲ保テ内止弁ル
夏ヲ云フ

古文秋風辞 大名燒ケ分テ百姓悲シ分テ大子煙出テ火
夏南取藏ニ有テ火入門ニ有テ燒殘有テ奉書不能
防出梶橋渡ニ築地御堂殘テ寺中燒タリ矣ト同樂
分テ貧乏多シ矣ト備金幾時如何拂テ矣ト

大子の事子分ける事を四言こゝるい備法とシたん終る中庸
丸燒子飛も残す燒しテ依隣も同一事あらねばさら
大名も大子とならんて長くれまい急子燒出火子橋の内内

燒拂

やあら大子より出火をしりい屋おりあられ所を方新門迄
さし申り十六新書山通り一万新水風西風吹切り一車の
海へさし申す
六尺の辻より出火始り一俄頃のやあられ内各人を燒く

麻布一布松燒失と付

一松祝燒失しの齡已時窮可隣是在存
前表不氣

大子よまい

一くらしとゆみやあられ二西のつらいて
二三先の落下地まり一四の依田の余おり
あられ雪の大といき一六の空くかけ出る

ちるむとん 栴田夜
九つわくしに告げし

ハツ屋きい大浦光
十てとろくし夜ら明ん

藤地門流そ例年講の流んたせら
はり栴田延りいゆいゆゆり子存ん事
寺中へも大入寺家二と形も横り
つ後の講の内も大らりてくらん志んらんわんらん

大さめとね奇に 振るやそ

大えそと林たてられ大さよう生ていしねあめ
ましま

大のまよと句の上まま

娘君の口をましては火と出ていんたある口の中
儒者

ましま一たのりそ
ねか

ちるのせり出れん車やりして地獄谷まで
おろすまうし佛のまのらしてまの佛の遊いお家人
ちるのるのあのかじりまていんのかあるは家
ちるの花まうしに火り付てちしてちるん
万年し生る龜をいおろし所あふさひすも今のをそ

大火の三日まに戸田茂列よりましま園別の方
皆れまし園別大をけらめより里へゆいせ
ましま甲一返りゆい

やけわくれ園場の嫁持て田に居るやるけ出来
ましまゆりこん

日此おる所よりゆいとまたまも自火をまじ焼家
おたの夜にまあるたまははらり付て
ままけりやけておらゆい

過客

主事遊放

二遊傳言身老心幼尤寧死年
松平下地子家年大亦生幸更安

之枝市刀組古伝

吉田 春吉 門
三十一

長吉子家年

河井 幸吉 門
三十一

石倉 忠吉 門
三十一

永井 宗治 門
三十一

多田 与十郎 門
三十一

年山 伊左衛門 門
三十一

細川 信吉 門
三十一

山口 夜八 門
三十一

口人下女

福年
三十一

吉田 繁治 門
三十一

梅之

長十里四方遊放

長六片申間

六助
三十一

佐竹 右衛門 家年

野原 伊左衛門 養父男

伊藤 信次 門
三十一

神田 松永 所起 家年

又吉 忠吉 門
三十一

佐久 昌所 子 女 市 在 家 年

母持 春吉 門 在 仕

急家年

呵

備忘

口丁市名

在平次

了三年 三十七

右於評定所大井伊格守古名藏あり古名藏あり

一十月六日仕重家記

永井内膳相佐

酒井文次郎

三十七

重家退放

口人相佐佐

荒木又六

早七

高木長石放

文次郎

中ん

新打古池百押也

右依田和泉古於市役宅大是古治分三合和泉書中

一十二月朔、巳時之由是所大久保海軍の出力大南

松平源信と重家との間に大勢を根よりあり

一十二月二日仕重家

根津名高 込田傳次郎

櫛門

湯全人場

文治

空信

古高守居石海を依り相同心

丸山傳八郎

小菅徳平川

高井了次

廣田用人 兼地教古の能少る也

急如比 堀江平七郎

はねあふ改支配家次者

梅屋 田村建重

存重の親

田村 忠三郎

三河の長子

急如比

はねあふ改

三浦 幸重

急如比

丸山徳八郎

親打

西丸の如く改

梅屋

此所町人脱衣申退放す料子預比り未だ

一十二月十日。夜ふ時不極日河經山城の分お大石橋橋
失口時法。

大石如やまは例市用 氏以岩附城洋依河井渡橋者
法司代所免 迄役松平右京左史右三人を相寄

大石の岩付橋をよかり申して上るは是は用人
物の名を不まかりて移りしり申す一令は是て一の
は迄と引大石と引れり必令と祈りめあり

一十二月十日付仕生

是の山に依て存あり一見見絶病と改申す外に
多敷立治重と上揚り兵衛とを九りあり和洋
少多法徳川を右馬支配

過寒

後東三村事

後東三村

幸重

系統所引代松年右第...

松右衛門と異氣の流ひきやまひ

土城と死むの藤もとりふんき

依和と大根でたつやとさ

大迎と敵持やとりふん

一因と机の流ひきやまひ

正大と茂林と代りあふん

物子と田舎のしやとりふん

山氏と松あやとりふん

大是吉以家と九年目の樹やふ

大月舟大井伊徳

大伊と区り町やとりふん

曲典と西家の前もた

細回丹と氣の経ひま

福と

大月舟大井伊徳

大伊と区り町やとりふん

曲典と西家の前もた

細回丹と氣の経ひま

福と

大月舟大井伊徳

大伊と区り町やとりふん

曲典と西家の前もた

細回丹と氣の経ひま

福と

大月舟大井伊徳

大伊と区り町やとりふん

曲典と西家の前もた

細回丹と氣の経ひま

福と

大月舟大井伊徳

大伊と区り町やとりふん

曲典と西家の前もた

細回丹と氣の経ひま

寶曆七丁丑歲

一二月十日 宮別と根津松平伊豆守を動かす

一二月九日 夜四時比弁橋田新し橋内飛井能きとるを
お灸一刺ふ務焼る。但今年兼向之家元地を以て同

昨の仕也今日自火也

一二月比大臣を列左殿 岩附 三由 七等 史等 諸

大名を弁修別中も申くあらうと道中河りく

吾休弁苗を夜食す弁多物便を申野をりあり

一二月比池の揚弁也天冥快きし社内を大勢の地を

海言うらら申結申細工を申村の卯の振におし

一四月の夜

弁代娘君杯は所傳へて去る切を

一四月の夜 所傳へて傳へて長傳元貞は為下は伺きり

一四月十日 弁代娘君杯 法遊去也

一四月十日 是 辰上別上地 法遊院に為入

法遊号を稱華光院殿

一四月十八日より 有月つらとる夜を料多て法遊大秋の

や一徳長古河園信也大は 園東初美 奉海道命

川に流る 子位初布初 大初守也

一四月廿二日 富文遊去 伊伊宰相家將の家
依ん中智の貞建親女

一四月廿三日 園別谷申 蔵魚古ら安

一四月廿七日 夕方雷雨 十方大雷子色夜を初雷

鳴り所を流す 法遊内よりあはる

一二月廿七日十九日遊上地云
 有德院杯七面沙忌沙法事有之
 一月月紀列沙高 松平織部正頼 央卒云
 一七月之 紀伊大初之宗重孫沙遊去 春秋七十六
 言法之 唱物七日備山長修也
 同九日所書付沙嘉礼上地 法中院へ沙入史あり
 感意云云 大善 同十六日紀列上 相振也
 一七月十八夜八時幸橋内 松平貞徳書上屋敷
 如大石後燒失無影中千重之 貞徳書 幸舟
 一八月廿七日備上地云

山記定年行 山記定年行

中山をいふ
 福氣舟行
 三枝左三信

手方儀大板所守の勅役し序利用しりあは地不細
 地未及し如幸貞根末肉く收納仕在右地而此等
 正所味知制 冥未陸儀も之く如是遊新宛人
 有くもも際水く中戸也少女上毛方由古役也
 後身の上右新宛し義大板在役中久之全く抄上
 之義在前後お遺し義中全くし不指し如儀し
 由役也 正放知り 右石上 右山由書信入門
 此終付し

山記定年行 山記定年行

きんぎょ子
しんぎょ子

中世

和上

中山大陽子

又上江守不情... 中世... 松平... 大久保...

右今晚松平... 中世... 大久保...

一月廿七日

中世

大坂町

初井安藤子

橋井丹後子

右方... 大坂町... 初井安藤子... 橋井丹後子...

八月

右... 中山大陽子... 初井安藤子...

中山大陽子

中山大陽子

福垣町

系... 靈山... 長...

町守の勅使申一吐味書石洞未不の庵寺
至の依之居札七行付之
右の妙伯老曾及右内宅長行傳之曲劇豊後
舞絃之

京於町守の小林伊藤
法司代 芳和七福也

芳和也

一九月廿三日 於津川八幡社内大衆寺
奥の今よりより七日内今日初日二日月十日
三日月十日

茶
一九月十日

以後概然後河書

巻物二十昆布一糸

日光山門法

日 日人

巻物十昆布一糸

随自之隨官

右志和志山浄村内吳芝村末寺内為涉後儀
也也

一尚七月中南形法法寺在所初志之由礼仗老志
中上云云云云云云云云云云云云云云云云云云
一尚一流内奉老書留之當年七左松也云云云云
中奉老書留之當年七左松也云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
事在所云云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
後海云云云云云云云云云云云云云云云云云云

凡そ帯泉等谷中（注）

一十月廿五日 俄浮定所伐友事を以て是迄三合大内付曲削
豊後等少劫定存以一色因防等中内付稻生下地等
少劫定以地役少地友事更に俄少浮候内大谷中候

僅物右事等也（注）

此代友

廿二日友事

凡そ帯泉等

毛利山城等（注）

川田（注）

天地（注）

妻木（注）

平島（注）

一十二月十日 晴夜時 草橋御世（注）
一十月廿一日 洋傳（注）

全三少友

日七少友

日三少友

松平中督（注）

牧地（注）

松平山城（注）

右に在り水物（注）
よあわく（注）

全三少友

日七少友

日三少友

久世（注）

坊心（注）

平島（注）

右に在り（注）

一十二月廿七日夜八時淺草信所よりお父お母を夜明
お時ある所へお尋ねなす。

序書

多し物物化夜宿に堂供養子銀八夜子法又安養
江心お毛支隨書角之師くこころの砂子花之文
時以相丁束致しおぬり掃目おまき年花の
んき

お品

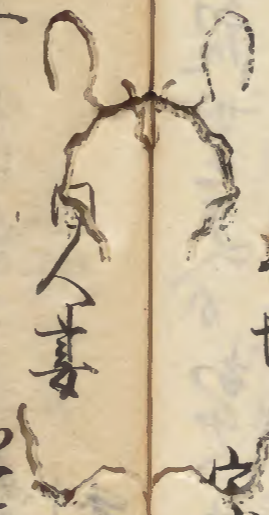
一苗之日世下お本丸お坊主の比は法能住お東
お一子お金子おまきお尋ねの御取上は法能御上
お仕立お通り

軒取

奥坊主

宗元

七十四



真人喜

徳也

三十三

親おくお後お押也

一宗元父白鳥お河海は法能御内病死也

行娘お梅お同好

おまきお河海おまき

親おくお河海お押也

浅草精舎所お家お持おまきお巨住

金子おまきお河海

七初年

三十三

口新お中お河海お命お店

平三郎

三十三

金子おまきお河海

口新お中お河海お命お店

平三郎
おまきお河海

所拂

急為化

也

白鳥曾任保正仕中河

与七
三十七

濱田河上平兵衛

平助
三十八

其形古而方今全子後上

八重郎
三十九

同所河内書役

守右馬
四十

之辨之書

新左衛門河内白象持

利右馬
四十一

備之

在抱持女

村新
四十二

全子之書

有人仕

津田
四十三

伊八
四十四

伊八
四十五

口本三丁の平兵衛

津田
四十六

濱田河内書役

久右馬
四十七

口本三丁の平兵衛

津田
四十八

口本三丁の平兵衛

伊八
四十九

七十一

梅

金子丸上



金子丸上

右於上包紙如書古役乞稻生

口所積金所取持

惣之

上谷物泉寺町

伊三

上谷物泉寺町

名古

上谷物泉寺町

中物

上谷物泉寺町

坂所中

本



